そよかぜ診療所での研修を終えて

神戸大学医学部附属病院　初期研修医
井上輝浩

まだ夏のように暑かった初日から、だんだん秋へと季節が移り変わっていった 10 月の 1 か月間、そよかぜ診療所で研修させていただきました。

外来では心エコーや頸部エコー、採血をたくさん経験させていただきました。これまでは両方ともに苦手意識があり、恥ずかしながら不安なまま行っていた手技ですが、秀樹先生、静子先生や看護師さんからの手厚いご指導で、1 か月を終えるころには少し自信が付きました。これだけ基本的な手技に時間をかけて取り組めたことはこれまでなく、大変ありがたかったです。

訪問診療も当然これまでしたことはなく、そよかぜ診療所に伺うまでは、訪問診療はどのようなものか、そもそも患者さんは、ここ朝来市で一体どのような生活を送っているのか皆目見当がつきませんでした。実際に伺ってみると、自分の知っている都会の大きな病院で過ごす患者さんとは全く違う、自宅での穏やかな暮らしぶりに驚きました。そういった患者さんと静子先生のたわいない話を聞いていると、医師と患者という言葉以上に血の通った関係のように感じました。

この 1 か月で特に印象に残ったのは 3 人の在宅でのお看取りに同行させていただいたことです。お看取りというと、これまで研修していた急性期病院では、ご家族が悲嘆に暮れる中、仕事とは言え自分も共鳴してしまうような悲しい現場という印象でした。今回同行した患者さんは皆さま穏やかにご自宅で亡くなられており、まさに診療所の理念に合った「楽しく生きて、楽に死ぬ」を体現されているように感じました。また、ご家族も、「最近まで元気だったのに」と涙を流される方や、すっかり死を受け入れて、お会いした時にはほっとした表情をされている方もいらっしゃり、これまで自分が持っていたお看取りは一つの側面に過ぎず、死の受け止め方も三者三様であることを実感しました。

秀樹先生からしていただいた開業医としての経営のお話も初めて聞くことばかりでした。地域医療と経営というのは自分の中ではつながりのない言葉でしたが、慈善事業ではなくシビアにそよかぜ診療所を経営されているお姿を見て、自分の視野の狭さを痛感しましたし、自分も開業するとは言わないまでも、盲目的に医療に没頭するのではなく、幅広い視野を持ちたいと感じました。

先生方だけでなく、そよかぜ診療所のスタッフの方々には大変お世話になり、日頃の業務はもちろん、朝来での 1 か月の生活は何のストレスもなく楽しく過ごさせていただきました。週末に自転車をお借りして行った竹田城で見た朝来市を見下ろす景色は忘れません。毎日の岡本家でいただくお昼ご飯も毎回おいしかったです。直観で選んだそよかぜ診療所でしたが、心から選んでよかったと感じています。秀樹先生、静子先生、黒瀬先生、スタッフの方々、岡本家の皆様に心から御礼を申し上げたいと思います。またどこかでお会いしたときに医師として成長した姿をお見せできるよう、これからも精進していこうと思います。